

背景・課題

守山市北部に位置するもりやまフルーツランドを中心とした果樹団地では、産地の活性化に向けて果樹産地構造改革計画を策定し、新規担い手への面積集積や、新品種・新技術導入等を進めている。その一環として、環境にやさしい栽培技術と省力化に資する先端技術等とを組み合わせた「グリーンでスマートなハダニ対応型ナシ栽培体系」への転換を図ることを目指すこととした。

成果目標と達成状況

天敵製剤（カブリダニ製剤）の利用と天敵にやさしい草生管理（自律走行式草刈機を活用）の実施による「グリーンでスマートなハダニ対応型ナシ栽培体系」の確立を目標とした。技術実証にあたっては農研機構が作成した「新果樹のハダニ防除マニュアル」を基としており、連携モデル地区として、農研機構（西日本農研など）から支援を受けている。

目標：化学合成農薬使用回数 3回→1回
ハダニ防除・除草作業時間 9h/10a→3h/10a

取組の成果

- 地域の実情に合わせた天敵製剤の効果的な利用に向け、防除暦の見直しが必要であることを明らかにした。
- 自律走行式草刈機を活用する際の課題点（ほ場の改善等）を明らかにした。

天敵製剤の利用



●天敵製剤（カブリダニ製剤）の利用による化学農薬の使用回数削減

自律走行式草刈機の活用



●自律走行式草刈機の活用による天敵にやさしい草生管理

普及に向けた取組

令和4年度、天敵製剤と自律走行式草刈機を用いて、「グリーンでスマートなハダニ対応型ナシ栽培体系」を目指した実証を行い、防除暦の見直しやほ場の改善の必要性等を明らかにした。

令和5年度は、その改善を行った上での実証を行うこととし、2か年にわたって得られた結果を元に、マニュアルを作成して地域の産地戦略に取り入れることを目指す。



守山市

構成員

ザ・コロナパークス（株）、
（農）さづかわ果樹生産組合、
滋賀県大津・南部農業普及指導センター、
守山市、滋賀県大津・南部農業農村振興事務所

品目

日本なし

